

Ludwig van Beethoven
Fidelio

トップページ | 見どころ&
 ものがたり | スタッフ&
 キャスト | インタビュー&
 コラム | 公演日程&
 チケット情報 | 動画 | PDF印刷 | FOLLOW US
  

Interview & Column

インタビュー&コラム

指揮 飯守泰次郎 インタビュー

正義、自由、夫婦愛を讃えるオペラが、新国立劇場に高らかに響く――

新国立劇場開場20周年記念を祝して新制作するオペラ『フィデリオ』。リヒャルト・ワーグナーの曾孫でバイロイト音楽祭総監督である気鋭の演出家カタリーナ・ワーグナーが演出することでも大きな注目を集める公演を、オペラ芸術監督・飯守泰次郎が指揮する。
 なぜ今、『フィデリオ』なのか、その思い語り、オペラ芸術監督としての4年間を振り返る。

<ジ・アトレ2018年1月号より>

今こそ『フィデリオ』を掘り下げ ベートーヴェンのメッセージを熟考すべき

—開場20周年記念シーズンの新制作の演目『フィデリオ』を選ばれた理由をお教えください。

飯守 『フィデリオ』はベートーヴェン唯一のオペラで、『フィデリオ』という名を聞いただけで私は身が引き締まるほど、オペラの中でも特別な作品です。というのは『フィデリオ』には、ベートーヴェンの最も深い哲学が表現されており、人の心にこれほど深い感動をもたらすオペラは他にないからです。欧米では劇場の大きな節目、重要な記念の日を祝うために『フィデリオ』を上演するという伝統があります。やはり『フィデリオ』は、新国立劇場開場20周年記念だからこそ上演すべき作品なのです。

ベートーヴェンといえば忘れてはならないのが九つの交響曲であり、彼は音楽史の流れを革命的に変えた作曲家です。つまり、彼の音楽は革新的なのですが、現代の私たちは「偉大なベートーヴェン」「偉大な第九」と、型通りに受け取ることに慣れてしまい、作品の力強い本質を忘れてしまっているのではないかでしょうか。
 『フィデリオ』が作曲されたのは、ヨーロッパにおける時代の大きな転換期でした。実は私たちも同じように時代の転換期を迎えていたのです。今こそ偉大な作品『フィデリオ』を深く掘り下げ、時代を超えて私たちに訴えかけてくるベートーヴェンのメッセージを熟考するべきだと、私は強く感じています。

—この『フィデリオ』は、オペラ芸術監督の任期最後に指揮する演目ですね。実のところ、監督は最後にワーグナーを指揮なさるだろうと想像しておりました。

飯守 皆さんそうおっしゃいます(笑)。私にとってベートーヴェンは、ワーグナーと並んで最も深く掘り下げてきた作曲家なのです。私は新国立劇場でワーグナー作品を多く指揮してきましたが、ワーグナーはベートーヴェンに強く影響を受けていて、『フィデリオ』がなければワーグナーの楽劇は生まれなかつたと私は思っています。そんな『フィデリオ』を芸術監督の任期の締めくくりとして指揮したいと思っていましたから、それが実現することをとても嬉しく思っております。



—演出は、ワーグナーの曾孫であり、斬新な解釈をなさることで話題のカタリーナ・ワーグナーさんです。彼女を選んだ理由をお教えください。

飯守 ベートーヴェンの音楽は今まで古典と言われますが、作曲当時は大変センセーショナルなものでした。ですから『フィデリオ』の革新性を表現するような、問題提起する舞台をつくるべきだと思ったのです。カタリーナ・ワーグナーさんならそんな舞台をつくってくださるに違いないと思い、依頼しました。彼女はバイロイト音楽祭の総監督ですが、実はとても若い人で、次世代のオペラ界を担う人です。ドイツ各地の劇場でワーグナーをはじめとするさまざまなオペラを演出しており、最近では2015年バイロイト音楽祭『トリスタンとイゾルデ』が高く評価されました。今回、若い彼女ならではの示唆に富んだ解釈による、新国立劇場が世界に発信するにふさわしい『フィデリオ』が誕生することを期待しています。

また、カタリーナさんは新国立劇場と縁があり、1997年、新国立劇場開場記念公演『ローエングリン』ではカタリーナさんの父ヴォルフガング・ワーグナーさんが演出されました。カタリーナさんは、新国立劇場のオペラでおそらく初めて親子二代にわたって登場される方です。開場20周年を象徴する特別な巡り合わせを大変嬉しく思います。

音楽によって人をより崇高な世界へ導きたい その意思が『フィデリオ』に込められている

—今回の上演を通して、お客様には『フィデリオ』のどのような点に注目していただきたいですか。

飯守 日本だと『フィデリオ』は、上演回数が少ないこともあって、少し難しいというイメージがあるかもしれません。しかし、これほど素晴らしいオペラは他にならないということを、今回の上演を通して日本のお客様にもぜひ知っていただきたいです。

ベートーヴェンは、音楽の中に極めて強い自分の「意思」を込めた最初の作曲家です。そのため、彼の作品は、劇場での体験を通して聴き手の内面にドラマを引き起こし、聴き手に精神的な豊かさをもたらします。音楽の持つ力が、人の心を強く変えていくのです。この点でベートーヴェンはワーグナーの先駆者といえます。

当時のオペラの題材は、身を焦がすような恋、浮気、嫉妬といった人間の生きざまをさらけだすもので、オペラは一種、娯楽に近いものでした。しかしこの作家と違い、ベートーヴェンは、音楽によって人をより崇高な世界へ導きたいという強い欲求を持っていました。そこで、オペラを作曲するにあたり、娯楽的な題材では納得できず、自分の理想に一致する台本を探し求めました。そして、より深く、より貴重な人間像を描くのにふさわしい「救出劇」という題材に出会ったのです。それが『フィデリオ』です。主人公レオノーレが、夫フロlestonを救うため、男装してフィデリオと名乗り、命をかけて牢獄に乗り込んでいくという、彼女の勇気ある行動が劇的に描かれる物語です。オペラの題材が「気高い夫婦愛」とは本当に異色ですが、生涯独身だったベートーヴェンの女性に対する理想像がはっきり読み取れます。フィナーレでは、合唱が「素晴らしい妻を得たものは、この歡喜に参加せよ」と高らかに歌いますが、これは約20年後に作曲される『第九』の第4楽章の合唱の歌詞と同じなのです。つまり、彼は一生をかけて『フィデリオ』の理想を温め続けていたということです。

—聴きどころはどこでしょう。

飯守 たとえば第1幕の四重唱。レオノーレ、マルツェリーネ、ジャキーノ、ロッコ、4人それぞれの希望、絶望、心情が、美しく静かなアーディショのカノンで歌われますが、これは「第九」第3楽章のアーディショにも通じる、瞑想と至福の音楽です。一方で、フロlestonを抹殺しようと決意するドン・ビツアロの破壊的な悪のアリアは、不協和音とアクセントの連続です。このような両極端な表現にこそ、ベートーヴェンの二面性が表されていると思います。また、レオノーレが決意と希望を歌い上げるアリアには、ベートーヴェンの理想的な女性像が凝縮されています。自由と解放を求める有名な囚人の合唱には、「闇から光へ」という彼の生涯のテーマが感動的な響きであらわれます。

フロlestonは長く地下牢に閉じ込められていますが、それでも変わらない高潔な人格が見事に表現された第2幕のアリアは聴きどころです。そして、フロlestonの人物像をカタリーナさんがどのような方向から捉えて描くか、とても楽しみです。

フロlestonは長く地下牢に閉じ込められていますが、それでも変わらない高潔な人格が見事に表現された第2幕のアリアは聴きどころです。そして、フロlestonの人物像をカタリーナさんがどのような方向から捉えて描くか、とても楽しみです。

歌手にこだわり、さまざまな国の演目を上演し 劇場の熱気を上げた4年間



2014年10月「パルジファル」より 撮影:寺司正彦

と合う歌手がステージにそろい、彼らが情熱と使命感をもって歌ったときに聴衆は熱狂するのです。お客様から「新国立劇場は再演演目もキャスティングが大変充実している」とのお声をいただき、私も大変嬉しく思っています。また、唯一の国立のオペラハウスである新国立劇場は邦人作品を上演していくことも大変重要な使命です。宮田慶子演劇芸術監督が演出された松村禎三『沈黙』は、初演では中劇場で上演しましたが、オペラバレスに移して一段と大きなスケールで上演したこと大変好評でした。

—オペラ芸術監督として、最も大切にしてきたことは何でしょう。

飯守 「劇場の温度を上げることです。劇場は「生きもの」です。舞台と客席の熱狂なしには素晴らしいオペラは作れません。どうしたら舞台と客席を熱く出来るか、私は常に考え、全力を尽くしてきました。おかげさまで、芸術監督就任直後と現在を比べると、劇場の「温度」が確実に上がっているという実感があります。

—新国立劇場の将来への期待についてお聞かせください。

飯守 「開場20周年」ということは劇場としてはまだ若いですから、これからもレパートリーをもっと増やしていくってほしい。そして一流歌劇場として、アジアにおけるオペラ鑑賞的一大拠点となることを期待しています。

—監督の4年間の集大成としての『フィデリオ』、5月の初日が待ち遠しいです。

飯守 『フィデリオ』は、ベートーヴェンの理想主義、深い哲学が観る人の心に響く、「第九」に勝るとも劣らない深い感動をもたらす作品です。その感動は、カタリーナさんの演出以外には味わうことのできない特別なものになるに違いないと私は期待していますので、皆様もぜひご期待ください。

Top

チケット購入



WEBからのお求め



新国立劇場
Webボックスオフィス



チケットぴあ



e+ イープラス



ローチケ.com



グループでのお申し込み

10名以上でご観劇の場合は新国立劇場営業部(TEL 03-5352-5745)まで
お問い合わせ下さい。



お電話からのお求め

新国立劇場
ボックスオフィス

03-5352-9999

10:00~18:00/年中無休
(休館日2018年3月19日(月)を除く)

チケットぴあ

0570-02-9999 (Pコード321-501)

ローソンチケット

0570-000-407 (オペレータ受付)
0570-084-003 (Lコード39198)

JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行・
東武トップツアーズほか



ACCESS

新国立劇場のご案内

〒151-0071
東京都渋谷区本町1丁目1番1号
TEL : 03-5351-3011 (代表)

京王新線(都営新宿線乗入)「初台駅」
中央口(新国立劇場口)直結。



Share



ツイート

公演をシェアする



いいね!

Follow us

公式ソーシャルメディア



YouTube

新国立劇場ホームページ
友の会クラブ・ジ・アトレ



 新国立劇場
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

2017/2018シーズン・特別支援企業グループ
—ONWARD— KAO TBS 'TORAY' TOYOTA みずほ

当サイトに関する内容一切の無断転載及び使用を禁じます。
Copyright © 2017-2018 NEW NATIONAL THEATRE, TOKYO. all right reserved.